

<報道関係各位>

2017年9月15日

一般社団法人 日本化学工業協会

次世代自動車材料の温室効果ガス排出削減貢献量の評価結果を公表

一般社団法人 日本化学工業協会（住所：東京都中央区、会長：石飛 修（住友化学株式会社社長）、以下「日化協」）は、対象となる化学製品を使用した最終製品と従来製品それぞれのライフサイクル全体で排出される温室効果ガス（Greenhouse Gas、以下「GHG」）を比較するcLCA（carbon Life Cycle Analysis）手法の普及を進めています。このほど、同手法のグローバルガイドラインに沿って、新たに次世代自動車材料（※）の評価を行ない、その内容を公表いたしました。

化学製品の製造過程ではGHGが排出されますが、一方で、最終製品の素材や部材として使用されることで多くの化学製品が排出量の削減に寄与しています。cLCA は、国際化学工業協会協議会が、2009年に初めて提唱した手法で、バリューチェーン全体で果たすGHG排出削減量を分析し可視化することで、化学製品の利用促進や削減ポテンシャルの実現につなげることを目指しています。

日化協はこれまで、太陽光発電や、住宅用断熱材、低燃費タイヤなど 19 事例のGHG排出削減貢献量を示すとともに、算定方法のルールや留意事項を整理したグローバルガイドラインを発表し、cLCAの透明性と信頼性向上および普及に努めてまいりました。従来は、会員企業の協力を得て調査を実施していましたが、今回発表した事例から、製品を製造販売する企業が主体的に調査を行い、その内容を日化協が確認し企業名を明らかにしたうえで公表する仕組みに改めました。これにより、各企業における cLCA 手法の活用や自社製品の省エネ効果の訴求拡大につながることを期待しています。

日化協は今後も、会員企業と連携しながら cLCA 手法による評価対象製品を広げ、ライフサイクル全体でのGHG排出削減を目指してまいります。

（※）次世代自動車： ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、電気自動車、燃料電池自動車

概要

調査責任者： 旭化成株式会社、宇部興産株式会社、住友化学株式会社、三井化学株式会社、株式会社三菱ケミカルリサーチ

評価対象： 次世代自動車の材料となる化学製品（正極、負極、電解液、セパレータ、電池筐体、ガスバリア膜、補強材に使用される 9 製品）

算定結果： ガソリン自動車と比較した場合、次世代自動車の導入による全ライフサイクルでの二酸化炭素排出は、2030年の予測販売台数分で約 4 億 5,900 万t削減されると試算された。

報告書： 「次世代自動車材料」に関するcLCA 評価

https://www.nikkakyo.org/upload_files/global_warming/clca/jirei/clca_automobile_material.pdf

（日化協 HP→エネルギーと気候変動→cLCA 事例→次世代自動車材料）

《本件に関するお問い合わせ先》

（一社）日本化学工業協会

広報部

鎌田、鈴木

[TEL:03-3297-2555](tel:03-3297-2555)

技術部

寺内

[TEL:03-3297-2578](tel:03-3297-2578)